

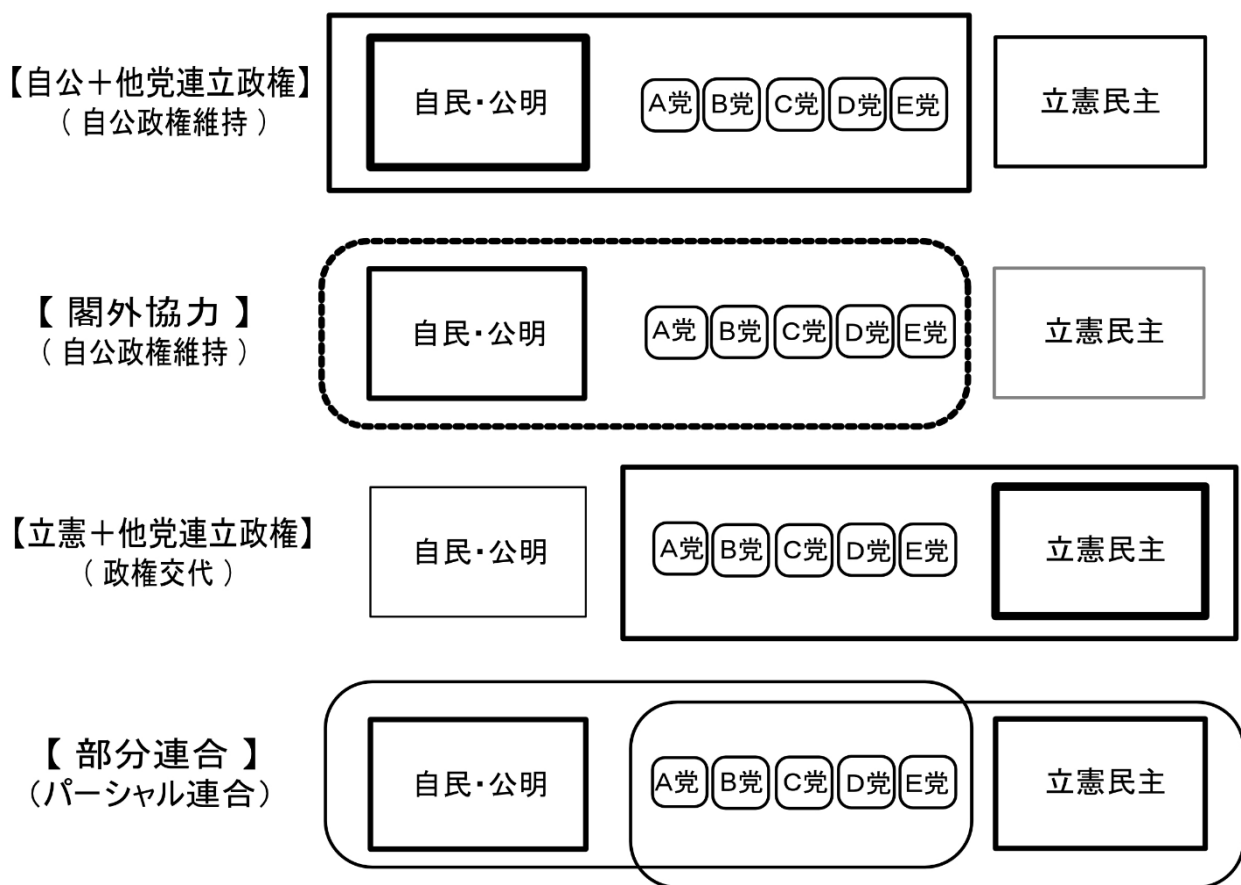
## 11月11日臨時国会召集!? 政権の枠組みが注目されます。

総理大臣指名選挙を行う「特別国会」は、衆議院選挙の投票日から30日以内に召集しなければならないと定められています。

10月27日投開票の『第50回衆議院議員総選挙』結果を受け、10月28日、自・公両党は国会内で協議。石破首相は11月11日に「臨時国会」を召集することで与野党協議に入っています。

今総選挙で、与党は過半数を失い、少数与党に転落しました。今後の政権の枠組みが注目されています。自公+他党による「連立政権」か、立憲民主党+他党による「連立政権」で政権交代が実現するか。はたまた「閣外協力」か、「パーシャル連合」か、この点も大いに注目すべき点です。

### ※※ 日本の政権の枠組み ※※



我が国における政権の枠組みは、その時々政局によって大きく動いてきました。

日本においては、1976年12月の『第34回衆議院議員総選挙』は、戦後初の衆議院議員の任期4年満了に伴う総選挙でした。

1976年7月『ロッキード事件』で田中角栄が逮捕。同年12月、三木武夫首相の下で行われた『第34回衆議院議員総選挙』は、自民党が議席を減らし、三木内閣は総辞職。

選挙後、福田赳夫内閣が誕生。伯仲国会の中で誕生した福田内閣でしたが、当時の大平正芳自民党幹事長が野党に対して個別政策について融和的に話し合う、いわゆる『パーシャル連合（部分連合）』を提唱。我が国における『パーシャル連合（部分連合）』の始まりです。

『パーシャル連合（部分連合）』とは、個々の政策について個別の政党ごとに話し合った上で提携し、個別の政策を実現させていく連立の枠組みのことです。「連立政権」や「閣外